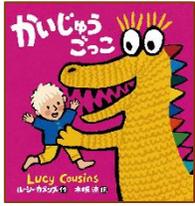


かぞくの絵本



『かいじゅうごっこ』
ルーシー・カズンズ/作
木坂 涼/訳 偕成社
おねえちゃん、おじちゃん、ねこちゃんも、みーんなかいじゅうになっちゃった！大迫力のかいじゅうたちはカラフルで個性的。家族と遊んだ体験から生まれたふれあいあそびの絵本。



『14ひきのあさごはん』
いむら かずお/作 童心社
森に住むねずみの大家族。起きて顔を洗ったら、みんなで朝ごはんの準備をしよう。おねしょしたり、けんかしたり、助け合ったり…見開きで描かれるイラストの中には、文字では語られない物語がもりだくさん。読んで楽しい見つけて楽しい絵本。

きょうだいの絵本



『こんとあき』
林 明子/作 福音館書店
おばあちゃんが孫のあきのために作ったぬいぐるみのこん。生まれた時からいつも一緒にいる二人は、ほころびたこんの腕を直してもらうため、おばあちゃんの家を目指す。ハラハラドキドキ小さな冒険の絵本。



『ピーターのいす』
エズラ=ジャック=キーツ/作・画
木島 始/訳 偕成社
妹が生まれ、ピーターが使っていたゆりかごや赤ちゃんベッドがピンク色に塗りがえられていく。まだ塗られていない小さないすを抱え、家出をするこにいたピーターが「お兄ちゃん」になる瞬間を描いた絵本。

なかよしの絵本



『ぐりとぐら』
中川 李枝子/作 大村 百合子/絵 福音館書店
のねずみのぐりとぐらは料理が大好き。森で見つけた大きなたまごでカステラを作っている。焼きあがる匂いに誘われて、動物たちも集まってきた。ふんわり黄色の大きなカステラに思わずよだれがでてしまう絵本。



『だるまちゃん と てんぐちゃん』
加古 里子/作・絵 福音館書店
てんぐちゃんの持つうちわがほしくてたまらない。だるまちゃん。よく似たやつでの葉を見つけて、今度はてんぐちゃんのかぶっている帽子がほくなって…お友達や家族の持ち物に興味津々。なんでも真似をしたくなる年頃にぴったりの絵本。

想像する絵本



『めっきらもっきらどおんどん』
長谷川 摂子/作 ふりや なな/画 福音館書店
遊ぶ相手が見つからず、お宮に来たかんだ。大きな声でめちゃくちゃなうたを歌うと、奇妙な声に呼ばれて、穴の中へ。ふしぎな世界で出会ったのは、へんてこりんな3人組。躍動感あふれるファンタジー絵本。



『わたしのワンピース』
にしまさ かやこ/作 こだま社
うさぎが作った真っ白なワンピースは、花畑を散歩すると花柄に、雨が降ると水玉模様になる。そこへ小鳥たちがやってきて…次々と柄を変えていくワンピースにとくめく絵本。

ユーモラスな絵本



『うんちしたのはいだれよ!』
ヴェルナー・ホルツヴァルト/文
ヴォルフ・エールブルッフ/絵
関口 裕昭/訳 偕成社
ある日、もぐら君の頭にうんちが落ちてきた！怒ったもぐらくんが犯人をさがすため、動物たちに尋ねると…色々な動物のうんちが登場する、笑いながら学べる絵本。



『バナナじけん』
高島 那生/作 BL出版
車から落ちた、ひとつのバナナ。さるが拾って、パクッと食べた。放り投げた皮は道の真ん中。そこへうさぎが走ってきて…次はどうか？連続して起こる事件にクスッと笑える絵本。

のりもの絵本



『でんしゃのずかん』
五十嵐 美和子/作
近藤 圭一郎/監修 白泉社
新幹線、通勤電車、蒸気機関車…様々な種類の電車が細かく描かれている電車好きにはたまらない一冊。じっくり見て楽しめるから、外出時の待ち時間などにもおすすめ。



『ピンポンバス』
竹下 文子/作 鈴木 まもる/絵 偕成社
買い物帰りの主婦や学校帰りの子どもたちを乗せて走るバスは、病院に停まり、お寺に停まり…バスを利用する人々の豊かな表情としぐさがあたたかな地域のふれあいを感じさせる。人々の暮らしに寄り添う運転手さんの一日を描いた絵本。

科学の絵本



『アリからみると』
桑原 隆一/文 栗林 慧/写真 福音館書店
草むらはまるでジャングル。巨大なバッタやカマキリは迫力満点！アリの視点で見るビッグな世界を、写真で体験する絵本。



『まほうのコップ』
藤田 千枝/原案 川島 敏生/写真 長谷川 摂子/文 福音館書店
たねもしかけもないコップに水を注ぐだけで、「まほうのコップ」に大変身！コップや瓶を通して見ると野菜や果物がぐにやりと曲がって不思議な形に？おうちでも簡単にできる実験絵本。

人気アニメの原作



『ひとまねこざる』
H.A.レイ/文・絵 光吉 夏弥/訳 岩波書店
動物園から逃げ出した「じょーじ」は好奇心旺盛。レストランでつまみ食いしたり、部屋の壁にペンキでらくがきしたり…憎めないいたずらと予想外の展開が楽しい。おさるのジョージのもとになった物語。

昔話・民話の絵本



『かさこじろう』
いわさき きょうこ/文
あらい ごろう/絵 ポプラ社
雪の降る年末。じいさまは、まちに笠を売りに行くことにした。けれど笠は全く売れず、とほとぼ家に帰る途中で雪に埋もれた地蔵様を見つける。冷たかろうと売り物の笠をかかざると、真夜中にそりを引く音が聞こえて…



『おおきなかぶ』
A.トルストイ/再話
内田 莉紗子/訳 佐藤 忠良/画 福音館書店
おじいさんが植えたかぶは大きく育ち、いざ収穫の時。おばあさんと孫と力を合わせても、なかなか抜けず…「うんとこしょ、どっこいしょ」の言葉が耳に心地良い。くり返しの展開に盛り上がる絵本。



『三びきのこぶた』
瀬田 貞二/訳 山田 三郎/画 福音館書店
三匹のこぶたが葉と木の枝とレンガでそれぞれ家を建てると、オオカミがやってきた。家が壊せないかわかると、今度はカブやリンゴを餌にして、こぶたを誘い出し…こぶたを食べたいオオカミと、賢いこぶたの知恵比べ。原作に忠実に描いた絵本。



『三びきのやぎのからがらどん』
マーシャ・ブラウン/絵
せた ていじ/訳 福音館書店
草場を目指して出かけた三匹のやぎは山を登る途中、橋の下に住むおそろしい怪物トロールに出会う。「ひとのみにしてやろう」と迫るトロールを、やぎたちは言葉巧みにごまかして…ラストのどんでん返しが衝撃的！



『てぶくろ』
エウゲーニー・M・ラチョフ/絵
うちだ りさこ/訳 福音館書店
おじいさんが森に落とした片方の手袋。もぐりこんだネズミは、中で暮らすことにした。するとカエルやうさぎもやってきて…大きな動物まですっぽりと包み込む。「ありえないこと」を想像する楽しさを育む絵本。